

インクルーシブ教育の中で視覚障害教育を効果的に進めるための研究



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 保育・幼稚園コース 准教授

左振 恵子 Saburi Keiko

URL: [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード: 視覚障害教育・自立活動・早期教育・専門性・放課後等サービス・歩行指導・日常生活動作 (ADL) 指導

研究の概要

SDGs 目標 4: 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 10: 人や国の不平等をなくそう

視覚障害教育は、生徒の見え方と生徒自身の経験によって、指導方法や支援方法が変わってきます。しかし、視覚障害領域の教員免許取得者が少ないことと、生徒数の減少による教員の実践経験の不足により、効果的な視覚障害教育の維持継承が難しくなっています。視覚障害生徒の能力が最大限に育むことができるような指導を目指し、問題を整理し、課題を挙げ、方途を考えていくことが研究の目的です。現段階で把握している問題のうち二つを以下に提示します。

○視覚障害は初期の取り組みが大切

盲学校の幼稚部の乳幼児相談では、見えない・見えづらい乳幼児の子育てや遊び方について、保護者の方に寄り添いながら、お子さんの様子を見ながらお話をしていきます。この取り組みを通して、触ることの面白さや見ることの楽しさなどを子どもが体験し、外の世界を知る足がかりを作ります。この体験を積み重ねたものが経験となり、上級学校での学びに繋がります。しかし最近では、視覚障害故に必要な取り組みがなされないケースが散見され始めています。

○視覚障害生徒用の文房具類の製造中止が多数

点字を使っている児童生徒は筆算をすることが難しく、低視力の弱視児童生徒も筆算をしている内に書き間違えてしまい誤答になってしまうことが多々あります。そのために盲学校ではそろばんの指導が重要になります。彼らが使うそろばんは、玉が動きづらい特別なそろばんです。この大切なそろばんが 2024 年製造中止になりました。過去には、打ちやすかった木の点字盤、児童生徒が使いやすいと言っていたレーズライターと立体コピー用紙も製造中止になりました。弱視生が使う拡大読書器も国内では生産中止となりました。

次に危ないのは大量の点字の印刷ができる点字プリンターです。メンテナンスができる人がいなくなりつつあります。点字使用生徒に必要な筆記用具や教具がなくなる可能性があります。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】

本研究は、盲学校（視覚障害に特化している特別支援学校）の役割をあらためて見直すことにより、療育、保育園、幼稚園や普通校に在籍している視覚障害幼児児童への指導や支援、教育を効果的にこなうための方法を示唆することができます。

【協力可能事項】

視覚障害幼児児童生徒が在籍している園や学校に対して、勉強会の開催や助言をおこなうことができます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

・「手指動作を中心とする発達順序性－視覚障害生徒の日常生活動作再指導に活かす－」

【学会発表】

・「視覚障害生徒の日常生活動作の再指導方法についての提案(1)～(3)」

・「視覚障害教育の基礎・基本の再確認Ⅲ－点字使用児童生徒に対する指導－」